

展示ともに増加し、密度の濃い大会となったことは喜ばしい。関係者各位の協力も大きく貢献しているが、脈々としたエネルギーを感じたのは我々だけではなかったことと思う。今後の発展は疑う余地もないが、一人一人の研究活動がベースとなっていることを忘れずに、櫂を次に渡したい。来年の大会は北海道へわたることになる。平成10年8月20日(木)～22日(土)に北大でお会いできることを楽しみにしております。

## ◆第2回大会・展示を終えて

伊藤一男

スリーディー

(News letter Vol.2, No.10)

9月18、19日の両日、名古屋大学で開かれた第二回大会が無事終了しました。豊田講堂での展示も大きなトラブルも無く、展示担当としてほっとしています。これは、大会実行委員長である福田先生の責任感と幹事の新井先生の情熱と関山先生のガッツ、そして出展社(者)の行動力のお陰であると深く感謝する次第です。

ここで少し展示を振り返ってみます。

### 1. 企画、準備

昨年の第一回大会の経験があったので、今回はかなり余裕を持って企画、準備ができました。会場での打ち合わせが2回で済んだのも、昨年の経験と新井先生、関山先生の強力なバックアップ、そしてmailの活躍でした。

### 2. 出展社(者)数

作品・実演展示：10件、名大オープンラボ展示：4件、企業展示：16件でした。昨年の第一回大会に比べ、作品・実演展示の件数はほぼ同じ、オープンラボ展示は今回が初めて、企業展示の件数は昨年が8社でしたので、今回は倍増となりました。特に企業展示は昨年より1社でも多くとの意気込みで、企画段階で目標15社と決め勧誘活動をしました。費用的には出展費のほかに出張旅費などの経費がかかるのにもかかわらず、各社"VR学会の為に"と快く出展を決めていただいたことに、深く感謝いた

します。

### 3. 会場

第一回大会では展示会場の狭さが大変不評でした。図面に比べ実際の広さが少し狭かった為、その分企業展示にしわ寄せがいき、また会場を暗くしたせいか、まるでお祭りの夜店ようになってしまいました。

今回の豊田講堂の展示スペースは申し分の無い広さでコマ取りも余裕をもってできました。ただ、広すぎたため逆に暗くしなければならぬ展示への対応に頭を痛めましたが、幸い豊田講堂のステージを使用することで解決しました。最後まで右往左往したのは、電源容量の問題でした。昨年はATRさんにONYXへの電源容量が足りずご迷惑を掛けましたので、その教訓をと思ったのですが、今回は豊田講堂の電源容量がどの位あるのか電気図面、資料が無く"参った"と思ったのですが、名大お抱えの電気業者がいてクリアできました。しかも、工事費はかなり安くできました。

### 4. 来年の第三回札幌大会に向けて一言

来年は札幌です。ちょっと遠いかな、という気もしますが、行きたいなと言う気はもっとします。時間は何とかするにしても、交通費の工面と企業では上司への説得が大変でしょうか。へたをすれば上司自身が担当者をさしおいて行ってしまいますから。うまくストーリー、仕組みを工夫しなければなりません。そして、出展社(者)数。今回以上になるとかなり厳しくなると予想されます。地元の企業にも出展をお願いするよう早目に勧誘された方が良いでしょう。それと、魅力ある展示にするには企業展示以上により多くの大学、企業の研究室の実演展示が必要ではないかと思えます。学会からの展示費用の補助も必要になるかも知れません。また、是非大学研究室と企業との合同研究、展示が今後増えてくることを期待します。

大会の企画、運営のノウハウも少しずつ溜まってきたと思います。他の学会との大きな違いは色々な分野の研究者が集い、その研究成果の体験ができることではないかと思えます。今後とも、この大会が研究者にとっても、企業にとっても魅力ある大会になることを祈念します。数年後にはSIGGRAPHを凌いでいる？